

NO.2

アカメガシワ (トウダイグサ科)

山野にふつうに見られる落葉広葉樹で、高さは10mほどになります。芽立ちの新葉が紅色であることと、葉が大きくカシワのような大きな葉をつけることからアカメガシワ（赤芽柏）の名がつけられています。この大きな葉は、カシワと同じように食物をのせるのに使われたといわれています。

分布は広く、沖縄から北海道まで全国に及び、朝鮮半島や中国、台湾にも分布しています。太陽の光を好む代表的な陽樹で、成長が早く伐採跡地や道路脇などに最初に出てくる樹木です。潮風にも強く、海岸付近にも自生しています。

赤い新芽の美しさのほかに、秋の黄葉が美しくよく目立ちます。最近では、健康によい成分が含まれていることが分かり、健康茶の原料にも使われるようになりました。

葉の付け根をよく観察すると、蜜がでる突起（蜜腺）を確認することができます。これは、蜜腺から出る甘い汁でアリを誘い、そのアリに葉につくダニなどの害虫を食べてもらうための戦略と考えられます。

地方名はアカメ、アカガシワ、ソーツツミ、カワラクサギナなどと呼ばれており、隠岐ではアメフリとかアメフリノキなどとも呼ばれています。



▲ 新芽が赤いことからアカメガシワの名がつけられた



▲ 花と葉：7月上旬花をつける